～をぶ～

町地区。このにはがあり、の終わりごろからとして栄えました。、を含んだというが見つかり、1920（大正9）年には、したをしてを（焼き）するようになりました。

焼きの時に発生するをんだがこの辺りの山あいにあるをい、土にみ、川を流れました。周囲の竹林はほとんどれ、にするヤマメやはを消し、農作物の中には育たなくなるものも出てきました。このように、に土呂久のはされ、しいせきや体のが見られるなど、住民のもむしばまれていきました。

　土呂久がして9年後の1971（昭和46）年、地元の小学校にめるひとりのが、土呂久地区の児童の健康がすぐれないことに気づき、土呂久地区周辺の調査を始めると、多くの住民がなどのを口にし、また、くしてくなった人が多いこともわかりました。

　教諭の調査結果が新聞やテレビでされたことで、土呂久地区のもれていた公害問題が、「土呂久公害」として社会に知られるようになったのです。土呂久で焼きが始まってから51年後のことでした。

1973（昭和48）年、国は土呂久地区を公害病のとし、を「」と定めました。宮崎県は住民の健康状態をするために、高千穂にや、などのがいて、毎年、をしています。

　宮崎県は、1972（昭和47）年に最初の7人をしました。それ以来、は増え続け、その数はで２００人をえています。

2020（令和2）年3月にがし、美しいを取りしました。

屋内, 窓, テーブル, 部屋 が含まれている画像

自動的に生成された説明森の中にいる男性の白黒写真

低い精度で自動的に生成された説明